

日本老年歯科医学研究会設立総会記録

1. 設立総会までの経緯

わが国における老年者のための歯科医療に対する社会的要請が年ごとに高まってきていることは衆知のことである。一方、昭和57年に制定された老人保健法は医療と福祉を包括し、かつ地域保健を基盤として老年者特有の疾患に対する予防対策をねらいとしている。

このような時機に、老年歯科医学研究の集いが呼応されてきているのは当然のことであったが、むしろ遅すぎるといえる声があるぐらいであった。しかしながら、従来の歯科領域における研究会ないし学会は単一領域のものが殆どであるので、今回のように多領域を包括する研究会または学会となるとその構成と運営が容易でないことに遭遇した。そこで永年、老人歯科医療に取り組んでこられた東京都老人医療センター歯科口腔外科部長の渡辺郁馬先生を中心に、ひとまず老人歯科医学研究会(仮称)設立準備の世話人の集まりを持とうということで、昭和60年5月頃から活動開始となった。当初、10数名の世話人の母体でその年の6月25日、9月3日、11月27日と数回の会合で検討を行い、設立趣意書草案の提示と各領域からの世話人の推薦をお願いすることとなった。その結果、第1回老年歯科医学研究会設立世話人会が20数名の参集により昭和60年12月11日(水)に東京歯科大学西別館会議室(水道橋)で午後2時から5時まで開催された。

つづいて、第2回の世話人会を翌年の昭和61年2月15日(土)午後2時から5時まで東歯大会議室(水道橋)で開催し、第3回は4月19日(土)午後2～5時に東京グリーンホテル水道橋の会議室、第4回は5月26日(月)午後3～5時30分東京グリーンホテル水道橋会議室で会則草案作成と研究会設立総会の準備が各世話人の熱心な奉仕に支えられて進められてきた。この時期になって、設立総会の開催内容が具体的になり、会の世話人代表に渡辺郁馬先生、準備委員長に森本基教授(日大松戸歯学部・衛生)、総会会場を市ヶ谷の日本大学会館とし、特別講演を *Journal of Gerodontology* 誌編集長の Lawrence H. Meskin 教授(コロラド歯学部部長)、さらにシンポジウム開催を座長に石川達也教授(東歯大)シンポジストを榊原悠紀田郎教授(愛知学院大・歯)、内田安信教授(東医大)、久保田康耶教授(東医歯大・歯)、新庄文明先生(大阪大・医)の各位にお願いすることとなった。

2. 設立総会

日本老年歯科医学研究会設立総会は、昭和61年9月13日の土曜日、市ヶ谷の日本大学会館で幕を開けた。この



設立総会における園山教授(日歯大)による経過報告

市ヶ谷の日大講堂は、収容席で400名、立見をいれて600名近いとされているが、9時30分の設立総会の開会時に当日参加者を含めてすでに400名近い満席となった。

開会は、長谷川紘司教授(昭和大学・歯)の司会で和久本貞雄教授(昭和大学・歯)の開会の辞で始まり、次に「設立までの経過報告」について園山昇教授(日歯大)、さらに、世話人代表挨拶として渡辺郁馬先生(東京都老人医療センター)から研究会の趣意を中心に老年歯科のこれまでの歩みとこれからの発展の必要性が述べられた。



設立総会における榊原教授(愛知学院大・歯)の議長挨拶

日本老年歯科医学研究会役員

会 長：渡辺郁馬

総務幹事：榊原悠紀田郎，園山 昇，石川達也

会計幹事：腰原 好，荒川 明，中村光夫

庶務幹事：長谷川紘司，下野正基，小林朗男

編集幹事：高江洲義矩，佐藤 佐，新庄文明

監 査：浦郷篤史，和久本貞雄，栗山純雄

顧 問：真泉平治（昭和61年11月ご逝去）

日本老年歯科医学研究会世話人（評議員，昭和61年9月13日付）

荒川 明（東京都・開業）

石川 達也（東京歯大・保存）

池田 克己（城西歯大・歯周病）

井上 憲臣（国立療養所中部病院）

岩山 幸雄（朝日大・歯・歯周病）

上田 裕（大阪歯大・麻酔）

上原 佑（聖路加国際病院・歯科）

上原 進（日大・松戸歯・障害歯科）

内田 安信（東京医大・口外）

内海 順夫（城西歯大・口病）

浦郷 篤史（鹿児島大・歯・口病）

枝 重夫（松本歯大・口病）

太田 仁史（伊豆通信病院・整外）

岡 達（藤田学園保健衛生大）

岡崎 卓司（大阪府・開業）

岡田 宏（大阪大・歯・口治）

奥野 善彦（大阪大・歯・補綴）

奥田 克爾（東京歯大・徴生）

笠原 浩（松本歯大・障害歯科）

金田 敏郎（名古屋大・医・口外）

久保田康耶（医歯大・歯・麻酔）

栗山 純雄（ライオン歯衛研）

腰原 好（東京歯大・補綴）

小林 朗男（都老医センター・歯科口外）

斉藤 精也（NTT・宮城健康管理歯科）

斉藤 稔正（立命館大・心理）

西蓮寺永康（日大・歯・放射線）

榊原悠紀田郎（愛知学院大・歯・口衛）

佐々木次郎（東海大・医・口外）

佐藤 佐（東京都・開業）

塩田 重利（医歯大・歯・口外）

下野 正基（東京歯大・病理）

新庄 文明（大阪大・医・公衆衛生）

鈴木 俊夫（愛知県・開業）

園山 昇（日本歯大・口外）

高江洲義矩（東京歯大・口衛）

高田 和彰（広島大・歯・口外）

高橋 和人（神奈川歯大・解剖）

中久喜 喬（東京歯大・麻酔）

中条 信義（徳島大・歯・麻酔）

中村 光夫（都老医センター・歯科口外）

長尾 正憲（医歯大・歯・補綴）

成田 令博（東京医大・口外）

野間 弘康（東京歯大・口外）

浜田 泰三（広島大・歯・補綴）

浜田 驍（鳥取大・医・歯科口外）

久野 吉雄（日本歯大・口外）

長谷川紘司（昭和大・歯・保存）

藤田 訓也（城西歯大・口外）

真泉 平治（日本歯大・薬理）（故人）

松本 直之（徳島大・歯・補綴）

森本 基（日大・松戸歯・衛生）

山本 昭（鶴見大・歯・放射線）

山村 武夫（東京歯大・病理）

米山 武義（千葉県・開業）

和久本貞雄（昭和大・歯・保存）

渡辺 昭（東京都・開業）

渡辺 郁馬（都老医センター・歯科口外）

酒井 信明（神奈川歯大・小児歯科）

大竹 繁雄（日大・松戸歯・臨病）

山根 源之（東京歯大・口外）

山岡 昭（大阪歯大・歯周病）

西嶋 克己（岡山大・歯・口外）

金子 譲（東京歯大・麻酔）

川島 康（東京歯大・オーラルメディシン）

関根 弘（東京歯大・補綴）

加藤 吉昭（日大・松戸歯・補綴）

山根 瞳（アポロ歯科衛生士学校）

中沢 勝宏（東京都・開業）

佐藤 雅志（多摩老人医療センター）

小林 俊三（東京都・開業）

— 順不同 —

総会は、議長選出によって榊原悠紀田郎教授を議長とし、会則と役員（幹事）の構成および評議員の選出に関する協議が行われた。その結果、本会発足にあたっては各領域から推薦された世話人71名を本会評議員とすることが承認された。さらに、予算案に関して会計担当の腰原好教授（東歯大）による説明のあと協議を経て承認され、10時10分、本研究会は正式に設立発足となった。

約10分間休憩の後、10時20分より初代会長の渡辺郁馬先生より挨拶があり、続いて来賓として厚生省健康政策局歯科衛生課の三井課長から「老年歯科の充実が切望されている今日、老年歯科医学研究会の設立は歯科界にとって歴史的な出来事である」という主旨の挨拶があり、日本歯科医学会会長（真泉会長）に代わって砂田副会長からは歯科疾患パターンの変化に対応するFDI報告を引用されて老年歯科医学が重要な課題を抱えていることを強調された。日本歯科医師会からは、光安常務理事からの挨拶があり、老人保健法の中での歯科の位置づけとその意義についての指摘と本研究会の発展を期するとし、次いで、東京都歯科医師会長に代わって鳴神副会長からは、日本の高齢化社会の到来が、西洋社会では約100年を要したのに対して僅か30年程度で達している現状を喚起し、超高齢化社会へ向かっての医療保険の中での老人歯科保健の位置づけを述べられた。なお、わが国において老人医療および老年医学の先駆的または中核的役割を果たしてきた東京都養育院の原田管理部長からは、明治5年に創設された養育院のこれまでの実績と医療は福祉の原点であるとする老人保健医療への取り組みの重要性を強調され、本研究会の今後の発展を期待するとの来賓各位のご祝辞をいただいて本研究会の実質的な発足となった。

3. 特別講演

来賓各位のご挨拶の後、準備委員長の森本基教授（日大松戸歯）の挨拶で、引き続いて行われる特別講演の案内があり、座長の渡辺郁馬会長から特別講演講師のLawrence H. Meskin教授についての紹介の後、11時から「老年歯科医学の展望 Perspectives in Gerodontology」と題してMeskin教授の講演が約1時間半行われた。特別講演の内容は本誌に6ページにわたって採録されている。Meskin教授の講演は同時通訳によって会場に流れ、これまでの老年歯科医学を系統的に解説し、わかりやすい内容の統計資料を挙げながら老年歯科の教育カリキュラムまで詳しく述べられた。さらに、1986年3月に米国NIH（国立保健研究所）から出版されたばかりの「老年者の口腔保健に関する研究要綱（A



Meskin 教授による特別講演

Research Agenda on Oral Health in the Elderly) について解説し、米国政府のこの分野における研究計画が紹介された。そして、日本老年歯科医学研究会の発足を高く評価し、今後の国際的な研究交流を切望すると共に、国際レベルで発刊されている学会誌の利用として“GERODONTICS 誌”への投稿を希望された。

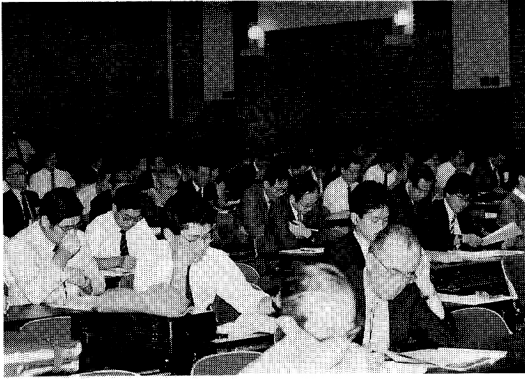
なお、Meskin教授はJournal of Gerodontology誌の編集長として活躍されておられるが、本会会長の渡辺郁馬先生は同誌の副編集長の任にあり、他に編集委員として日本側からは野間弘康教授（東歯大）が動めている。

4. シンポジウム

設立総会の午後の部は、1時30分～3時50分までシンポジウム「高齢者歯科医療の将来への提言」が開催された。座長に石川達也教授（東歯大）、シンポジストとし



シンポジウム「高齢者歯科医療の将来への提言」における座長石川教授（東歯大）と各シンポジスト



会場出席者風景

では、歯科保健・医療の立場から：榊原悠紀田郎教授（愛知学院大・歯・口腔衛生）、心理的立場から：内田安信教授（東医大・口腔外科）、全身管理について：久保田康耶教授（東医歯大・歯科麻酔）、ねたきり老人について：新庄文明先生（大阪大・医・公衆衛生）と各シンポジストからの多角的な現状分析と今後の課題および提言がなされた。各シンポジストの報告内容は本誌に総説としてまとめていただいて掲載されている。

今回の特別講演とシンポジウムは老年歯科医療・保健の今後の方向性を示唆したきわめて有意義な内容であった。

午後4時、設立総会準備委員長の森本 基教授（日大松戸歯・衛生）の閉会の辞で幕を閉じた。その後、5時から7時まで会場となった日本大学会館ホールで特別講演者の Meskin 教授とその夫人を囲んで懇親会が催され、参加者一同今後の交流を期待して散会となった（設立総会記録担当 高江洲義矩 記）。



特別講演者 Meskin 教授とその夫人に感謝の辞を刻んだ記念の楯を贈る渡辺郁馬会長



懇親会風景